

提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部 会 名	中学校 総則部会

1 提案テーマ 『学習指導要領の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善』

2 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 学習指導要領の内容を踏まえた特色ある教育課程の編成の工夫・改善
- ③ 学習意欲の向上や家庭と連携した学習習慣の確立を図る教育課程の編成の工夫・改善

3 学習指導要領との関連(内容項目)

第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針

- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

4 実践に向けての課題意識

本校では生徒の学習の取組に差があり、家庭学習の習慣に大きな開きが見られる。学校生活の基本的ルールを守れない生徒に対する生徒指導も抱えている。また、中学校3年生を対象にした平成25年度全国学力・学習状況調査では、本校の課題が2点浮かび上がってきた。1つ目は、読書についての課題である。他の地域の中学生より読書をする習慣がない生徒が多く、1ヶ月に1冊も本を読まない生徒が4割いるということがわかった。2つ目は、基礎学力の習得を個別に支援する必要がある生徒が多く、生徒のいわゆる学力の二極化が見られるということである。これは、以前から本校の課題でもある。

これらの課題を解決するために、教員が授業の質を少しずつ高める授業改善を推進していくこと、学校での読書指導を充実すること、基礎学力の習得に個別の支援が必要な生徒に具体的な手立てを講じ、学習習慣の確立に向かわせることなどの教育活動の工夫・改善に取り組んだ。

5 実践の概要

教育活動の改善の核として、学び合いを通して学習意欲を高め、学びを深める指導の工夫に取り組んできた。校内研究推進委員会を軸に、学年ごとの公開授業、授業公開並びに研究協議会を通しての授業改善を推進している。また、読書の課題については、読書習慣を身につけさせ、豊かな感性と考える力を育むことを目的として、今年度より朝の読書活動を始めた。さらに、基礎学力の定着を図るために、地域人材を活用して、夏休み10日間のサマースクールや定期テスト前の学習会、ゲストティーチャーによる教科の授業などを行っている。学校支援ボランティアの協力を得ながら、個別支援で生徒を励まし、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るための教育活動の工夫・改善に取り組んでいる。

6 成果と課題

教育活動の工夫・改善に取り組むことで、進級するに従い前向きに授業を受ける生徒が増えてきている。以前よりも学校の雰囲気落ち着いてきて学校が少しずつ変わりつつある。読書活動については、たとえ10分でも本を手にとらせることで、本を読むきっかけ作りや楽しさを味わわせたいという思いで取り組んでいるが、目に見える変化として、生徒は落ち着いた静かな時間から一日をスタートできるようになった。また、授業の中だけでは十分な個別支援が難しい生徒に声をかけ、地域の方の協力を得ながら行う学習支援は、生徒に「分かった」「できた」という思いを抱かせ、学習意欲や学習習慣の確立につながっていると実感している。

7 予想される協議の柱

学校が抱える課題に対する教育課程編成の工夫・改善